

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

高知県四万十市 市民病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上～100床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	9	-	ド透訓	輪
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
34,430	11,392	第2種該当	10:1	

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

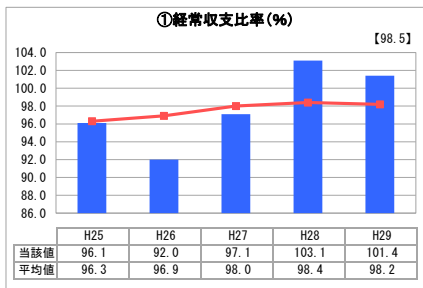
※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
99	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	99
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
99	-	99

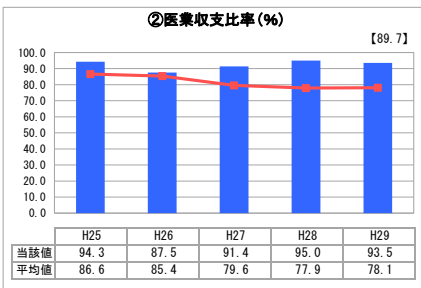
## グラフ凡例

- 当該病院値（当該値）
- 類似病院平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

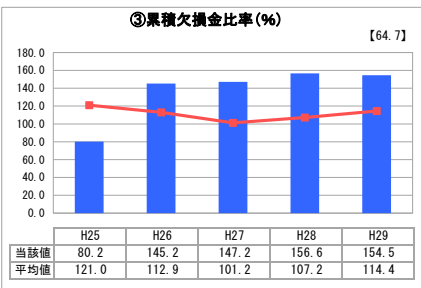
## 1. 経営の健全性・効率性



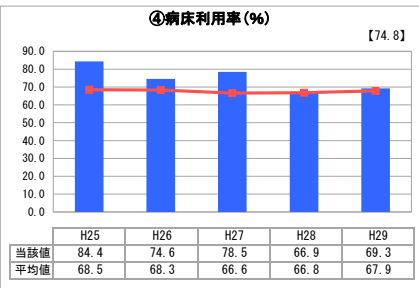
「経常損益」



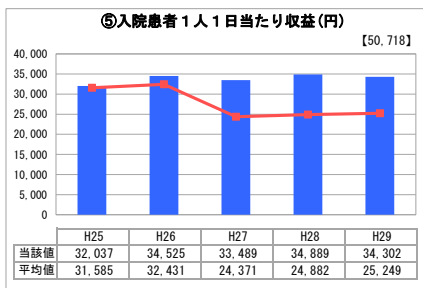
「医療損益」



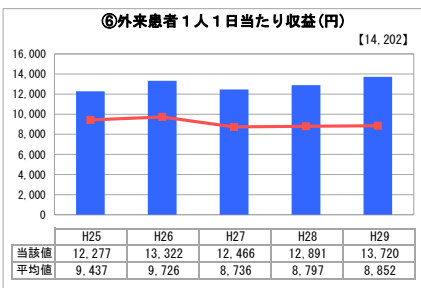
「累積欠損」



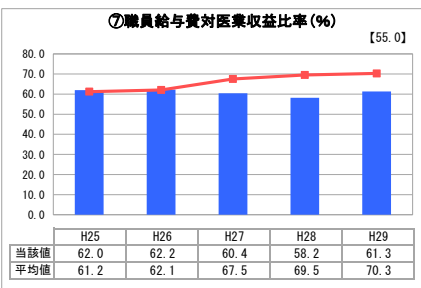
「施設の効率性」



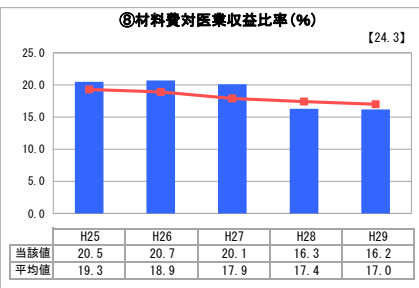
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

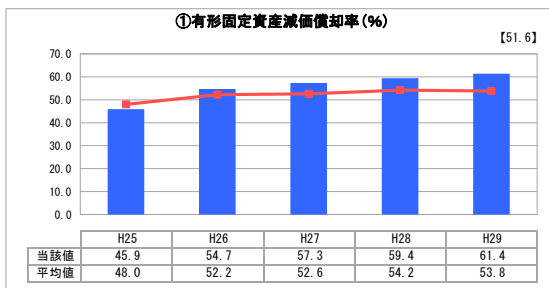


「費用の効率性①」

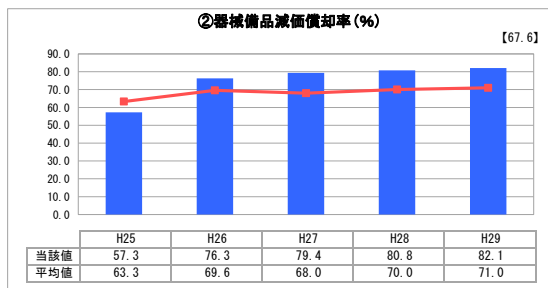


「費用の効率性②」

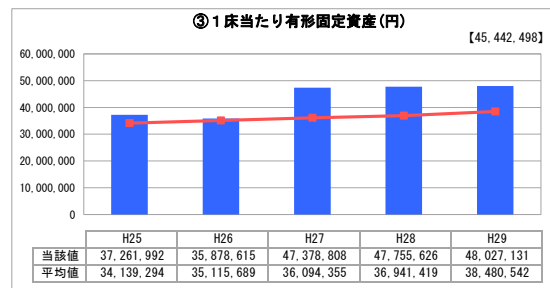
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

## I 地域において担っている役割

当院は、昭和27年に開設されて以来、地域における中核的医療機関として医療水準の向上に努め、市内のほとんどの医療機関が「回復期・療養期医療」を提供する中で、「急性期医療」を提供する役割を担い、市民をはじめ、幅多地域の住民の健康と福祉の増進に重要な役割と責務を担ってきました。今後も急性期医療を主体とした機能と規模を維持することを基本として、さらに進展する高齢者社会において、需要の増加が見込まれる回復期医療や在宅復帰支援の充実に努めます。

## II 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- ① 経常収支比率 (%)
  - 【指標】 単年度の収支が黒字であることを示す100%以上が必要。
  - 【分析】 平成29年度は黒字を計上。今後も平成29年3月に策定した健全化計画に添って収益と費用の両面から経営改善に努める。
- ② 医療収支比率 (%)
  - 【指標】 病院の本業である医療活動から生じる医療費用に対する医療収益の割合で、医療活動による経営状況を判断するもの。
  - 【分析】 類似病院を上回っており、さらに医療収支比率の向上に取り組み中。
- ③ 累積欠損金比率 (%)
  - 【指標】 累積欠損金が発生していないことが必要。
  - 【分析】 類似病院と比較して大きな累積欠損金が生じており、改善が必要。
- ④ 病床利用率 (%)
  - 【指標】 病院の施設が有効に活用されているか判断する指標。
  - 【分析】 いずれの年も類似病院を上回っているものの、平成29年度も70%を下回っており、利用率向上に取り組み必要がある。
- ⑤ 入院患者1人1日当たり収益 (円)
  - 【分析】 ⑤⑧とも類似病院を上回っている。
- ⑥ 外来患者1人1日当たり収益 (円)
  - 【分析】 ⑤⑧とも類似病院を上回っている。
- ⑦ 職員給与対医療収益比率 (%)
  - 【分析】 類似病院と比較して給与費の割合は低いが、今後も給与費の適正化を図る。
- ⑧ 材料費対医療収益比率 (%)
  - 【分析】 類似病院を下回っている。

### 2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率 (%)
  - 【指標】 100%に近いほど、保有資産の使用年数が法定耐用年数に近づいており、資産の老朽化度合いを表す。
- ② 器械備品減価償却率 (%)
  - 【指標】 有形固定資産のうち医療機器備品の老朽化度合いを表す。
  - 【分析】 有形固定資産及び器械備品の減価償却率は、他病院と比較して高くなっている。計画的に適切な器械備品等の更新を図る。
- ③ 1床当たり有形固定資産 (円)
  - 【指標】 1床当たりの有形固定資産の保有状況を示す。類似病院を上回っている場合は、過大な投資がないか原因の分析が必要。
  - 【分析】 平成27年度に大きく増加している原因は、平成28年3月1日より許可病床数が130床から99床へ減床したためである。また、類似病院を上回っている要因は、地域における中核的医療機関として「急性期医療」を提供する役割を担っており、診療機能の高度化、充実のために、高額な医療機器の整備や手術室や検査室に係る資産を保有しているためである。

### 全体総括

当院は、平成28年度に引き続き平成29年度も黒字を計上したものの、大きな累積欠損金を抱えるなど、近年の医療制度改革、診療報酬のマイナス改定、医師不足等の影響により、厳しい経営状況に直面しています。このため、平成29年3月に策定した「四万十市立市民病院経営健全化計画」に基づき、医療環境の変化に柔軟に対応し、経営の効率化を図るとともに、質の高い医療の提供や患者サービスの向上に取り組むことで、経営の健全化を図り持続可能な病院運営に努めます。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。